

令和4年度 白鳥小学校 学校経営方針

【学校教育目標】

あたたかく豊かな心とたくましく生きる力を育む

【めざす子ども像】

- 相手の気持ちがわかり想像できる子
- 自ら考え、仲間とともに学びあえる子
- ねばり強く困難を乗り越えられる子

【前提として】

① 「学校は人を総合的に育む場所である」

白鳥小学校は、子どもたちを育む場所である。子どもたちは各段階の学校生活を終えると大人になり、社会の中で活躍していく。私たち教職員はゴールを頭に描き、授業はもちろんのこと、学校の様々な場所で社会に出たときに困らないように教育をしていく。教職員はそのことに誇りと責任を持ち、自分の持てる力をいかしながら最良の教育を提供していくことが大切である。

子どもたちには、学ぶことの喜び、学びあうことの喜びを感じてほしいし、実際に、様々な選択肢を持てるような「力」をつけてほしい。さらに、将来的には様々な選択肢を選べる「力」をつけてほしい。友だちと協力することの大切さ、助け合うことの尊さに気が付くようにしてほしい。子どもたちには将来にわたって自己実現のために、耐える「力」、苦難を乗り越える「力」を身につけてほしい。

すべては、一人ひとりの子どもが、やがてこの社会で白鳥のように羽ばたくために

② 「学校はチームで運営する」

白鳥小学校は、教職員のチームで運営する。すなわち、白鳥小学校の教職員全員で白鳥小学校の子どもたちを育てる。教職員は、それぞれの価値観や

生き方をもっており、教育に対する様々な課題意識があり、様々な手法で子どもたちに寄り添い、思いを重ねて子どもたちに最良の教育を提供したいと考えている。一人ひとりの持ち味は違っても子どもたちに対する思いや教育に対する情熱をもっている教育者の集団（チーム）です。白鳥小学校においては、教職員が責任と誇りをもって、そして、お互いの信頼関係の中で、学びあい、尊重しながら職務を遂行するものとする。

③ 「白鳥小学校が白鳥地域の学校である」という視点を持つこと

白鳥小学校は、地域の財産であると認知され愛される学校づくりを行う。これまで学校は、子どもたちを育む場所として何十年も存在してきた。この地域に生活する人々の中には卒業生もその保護者の方も多数生活をされている。その方々にとって本校はたくさんの想いのつまった場所でもある。地域社会にとっての学校として愛されていくことで、現在この学校に通う児童やその保護者の方の本校への信頼感が高められ、結果として本校の教育の効果を高めていくことにつながる。誇りと責任を持った私たち教職員だからこそ、保護者や地域社会と協働関係を一層構築していきたい。そのためにも学校からの発信が大切であり、子どもたちに手渡す日々の学級通信からも学校の熱い思いが伝わるものとする。子どもたちのための学校だからこそ私たちは、保護者・地域社会と信頼関係を一層築き上げていきたいとする。

【重点的な取り組みとして】

1. 安全・安心な学校づくり

子どもたちにとって安心できる環境とは、温かい居場所と人間関係である。つまり先生や仲間の存在、居心地のよいクラスが不可欠である。特にいじめを許さない・見過ごさないことは、非常に重要なことであり、丁寧な指導に取り組む。教職員のいじめへの気付きの感度を上げることが大切である。集団に何も行わなければ、あたたかい居場所になるのは運任せになってしまう。そこには必ず仲間・集団づくりの視点が必要である。学校生活全般において、集団づくり、仲間づくりを意識した取り組みを継続して、個人的に行うのではなく、学校や学年として共通理解

のもとにねらいを持って行う。

また、教職員にとっても居心地の良い職場をつくっていくことが大切である。健康的に、笑顔で元気に仕事ができることが、白鳥小学校のパワーの源と考える。そのためには、職員室の雰囲気的重要である。教職員も一人ひとりが違う持ち味もっていることを認め合うことが大切である。誰もが居心地のいい職員室を教職員全員が望んでいること。ハラスメント問題が起こらない職員室、教職員同士の陰口は厳禁で、子どもの話がができる職員室、お互いの良いところを学びあえる職員室こそが子どもたちのためになり教職員のチーム力アップになる。

2. 学ぶ楽しさ・思いやりの心・困難に折れないしなやかな心

健やかな体をはぐくむ

子どもたちには、学ぶことの喜び、学びあうことの喜びを感じてほしい。そのために授業の中の一部には子ども自らが学びに向かうような工夫をして知識を獲得する嬉しさを実感させてほしい。

周りの人が困った時、手を差し伸べられる子どもたちにしてほしい。まずは子どもたちの自尊感情を高めることが必要であり、他者理解できる感情移入が必要である。そのためには学級経営の中で、子どもたちをそれぞれ認めていく活動が必要で、友だち同士が関わる場面をたくさんつくっていただきたい。教室の中のドラマが思いやりの心を育むと考える。

子どもたちには、将来にわたって自己実現のために、耐える「力」、苦難を乗り越える「力」を身につけてほしい。子どもたちが高い志と夢を抱き、その実現に向けて努力する態度を培うとともに、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意見を的確に伝えることができるコミュニケーション能力を育成することに重きをおきたい。

また、上記の事柄を達成する為には健康な身体は不可欠である。早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣はもとより、日頃から運動場に出て運動することを習慣づけ、適切な時期に適切な行事を仕掛けてさらに体力の向上をしていきたい。

3. 地域と保護者といいつながり

～高いコミュニケーションスキルと社会人の手本～

学校には保護者の方をはじめ多くの方が関わっている。その関係がうまくいかないと最終的には子どもの教育に影響がでる。指導が入らない。対応に追われて授業準備の時間がとれないなど。普段からいい関係を保つために丁寧な対応を心がけていきたい。なにか重大な連絡があるときは、連絡帳で終わらせず、家庭連絡や家庭訪問を行う。日々多用な中で、家庭訪問の時間が確保できないこともあるが、電話よりも保護者と会って顔を見て、しっかりと話を聞くことで解決することが多くある。一度重大な事案があっても臆せずしっかりと丁寧に対応していれば、太い信頼のパイプになる場合が多い。

学校へのイメージは最初で8割が決まってしまうと言われている。学校に来られる方に出会った時は気持ちのいいあいさつと親切な対応を。

最後に

私たちの仕事はこの社会にとって重要な「人を育む」仕事です。想像してください。もしもこの仕事がなかったら今の社会はどうなっていたか。この便利で豊かな社会は、我々の先人たちが、同じようにこの仕事をしっかり取り組んで人を育てていただいたおかげです。だから専門職として、この仕事はなくてはならない仕事なのです。一人ひとりが誇りと責任をもってほしいと思います。

しかしながら、人を育てるということは、物をつくる仕事と違って、すぐに結果がでません。とても不安になる仕事でもあります。

この不安を消す唯一の方法は、仕事の中で自分が手を抜かないということです。自分の持てる力を十分に発揮することです。それぞれの持ち味を生かしながら一生懸命に取り組むことです。

白鳥小学校のみんなで力を合わせて、何年後かに胸をはって誇れるようにこの学校に通うすべての児童の未来をつくっていきましょう。

羽曳野市立白鳥小

学校

校長 黒木

悟